

西中国山地におけるソウシチヨウの生息状況

上野 吉雄¹⁾・荒木 信²⁾・小柴 正記³⁾・日比野 政彦⁴⁾

¹⁾広島県立原養護学校・²⁾荒木医院・³⁾広島市水道局・⁴⁾安田女子大学

Notes on the Red-billed Leiothrix, *Leiothrix lutea*, in Nishi-Chugoku Mountains

Yoshio UENO¹⁾, Makoto ARAKI²⁾, Masaki KOSHIBA³⁾ and Masahiko HIBINO⁴⁾

¹⁾Hara School for Disadvantaged Children, 73-1 Hara, Hatsukaichi 738-0031,

²⁾Araki Clinic, 2-10-19 Yokogawa, Nishi-ku, Hiroshima 733-0011

³⁾Bureau of Waterworks, Hiroshima City, 9-32 Motomachi, Naka-ku, Hiroshima 730-0011 and

⁴⁾Yasuda Women's University, 6-13-1 Yasuhigashi, Asaminami-ku, Hiroshima 731-0153

Abstract: The Red-billed Leiothrix, *Leiothrix lutea*, was found for the first time in Nishi-Chugoku Mountains in the Jippo pass, Hatsukaichi city, Hiroshima Pref., on August 2002. In the next year, it was found in Mt. Jippo, Mt. Garyu, and Mt. Osorakan and around the Tateiwa dam. In 2003, 79 individuals were captured and banded. The habitats of Red-billed Leiothrix were recorded mainly in the broadleaved forest with *Sasa tsuboiana* on the forest floor, at an altitude above 900m.

©2004 Geihoku-cho Board of Education, All rights reserved.

はじめに

ソウシチヨウ *Leiothrix lutea* は中国南部、ベトナム北部、ミャンマー北部、インド・アッサム地方、ヒマラヤ西部などに分布するチメドリ科の鳥である。国内には飼い鳥として輸入され、飼育されていた。それらの中で逃げ出したものが野外に定着して自然林で増加している。本州では六甲山系、生駒山系、大台ヶ原、丹沢山系、秩父山系、筑波山などで繁殖しており、九州では1,000mを超える山系のほとんどで繁殖している（日本生態学会 2002）。

外来鳥類の増加による在来野生鳥類への影響としては、遺伝子汚染、病気の媒介、競争、補食による在来種の排除などが懸念されている（東條 1996）。また、ソウシチヨウなどの鳥類移入への対処についても議論されている（江口・天野 1999）。九州のえびの高原ではソウシチヨウとウグイス *Cettia diphone* が同じスズタケ *Sasamorpha borealis* 群落内で繁殖している。ソウシチヨウの繁殖個体の増加により、カケス *Garrulus glandarius* やヘビなどの捕食者の移入を促進し、その結果ウグイスの繁殖成功率の減少をもたらしたことが示唆されている（Amano and Eguchi 2002）。また、外来鳥類による新たな寄生虫症の発生は、在来野生鳥類に対し深刻な影響を及ぼすことが

懸念されており、ソウシチョウの寄生虫の調査が行われている（吉野ほか 2003）。

広島県内におけるソウシチョウの生息はこれまでに、比婆郡比和町吾妻山で2001年7月（飯田知彦氏 私信）と2003年10月26日（酒井洋子氏 私信）に確認されている。また、広島市牛田山で2001年9月に確認されている（飯田知彦氏 私信）。西中国山地におけるソウシチョウの記録はこれまで報告されていなかったが、今回の調査で4ヶ所での生息を確認したので報告する。

調査地の概要

広島県西部から北西部にかけては吉和冠山（1,339m）、広高山（1,271m）、十方山（1,318.9m）、恐羅漢山（1,346.4m）、臥竜山（1,223.4m）、掛頭山（1,126.1m）、天狗石山（1,191.8m）、阿佐山（1,218.2m）などの1,000m級の山々が連なり、西中国山地を形成している（図1）。調査範囲は西中国山地に属する吉和冠山、広高山、十方山、恐羅漢山、聖山、臥竜山、大佐山、掛頭山、雲月山、天狗石山、阿佐山、深入山などの1,000m級の山である。

調査方法

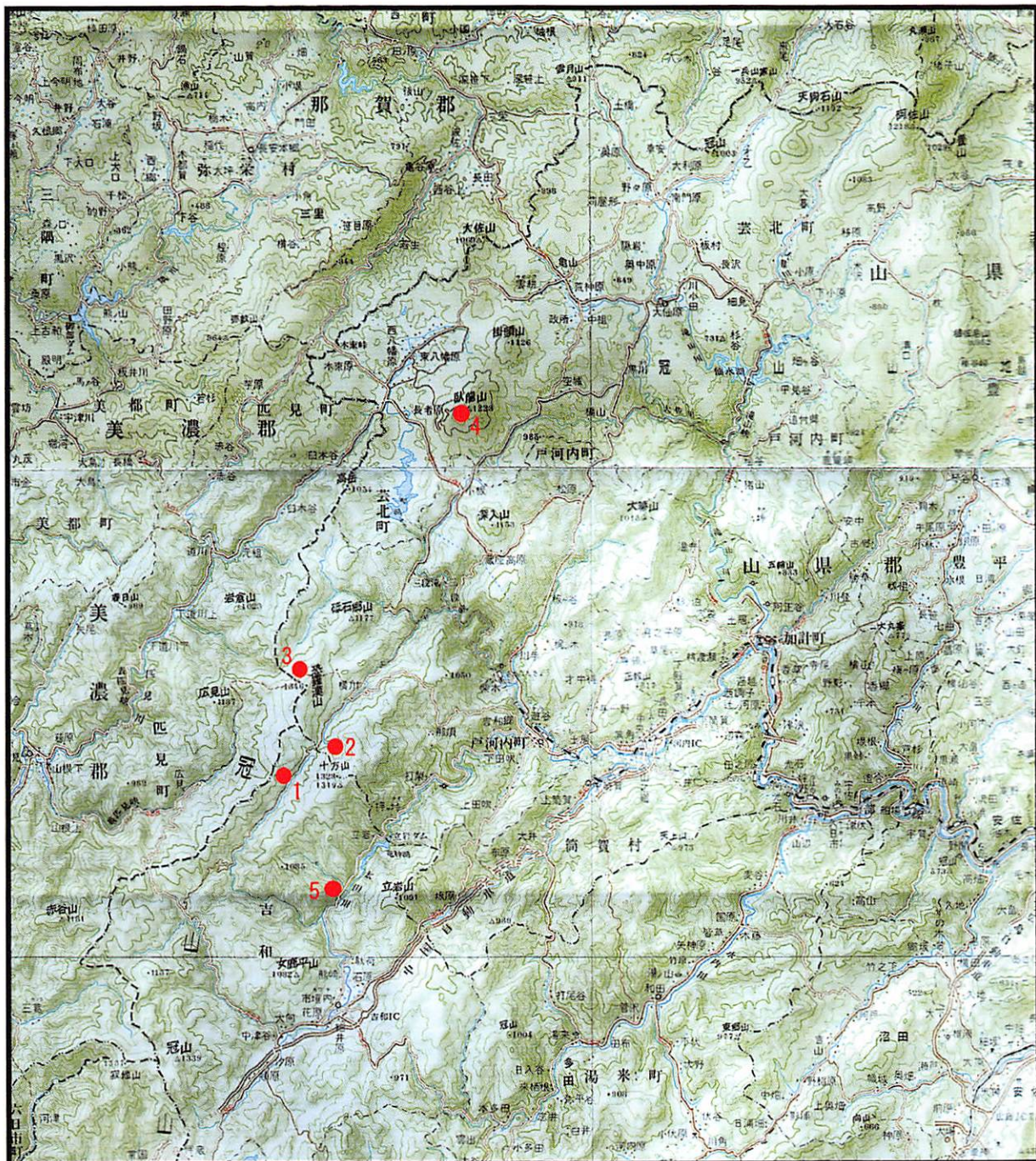
ソウシチョウの生息調査は2002年8月30日から2003年12月7日までの間に、冬季をのぞいて週1回の間隔で行った。ソウシチョウの確認は、目視、さえずりの聞き取り、標識調査での捕獲により行った。捕獲はカスミ網（24メッシュ）を用いて行った。ソウシチョウが水浴びをしにくると思われる溪流や、移動経路として利用している林道などにカスミ網を張って待機した。捕獲された個体については性、年齢や繁殖状態を調べ、外部形態を測定した後、環境省の鳥類標識用の足環を装着して放鳥した。野外での観察は双眼鏡（8倍）によって行った。

調査結果

1. 生息状況

廿日市市十方山林道の調査地では、2002年には8月30日に2羽を目視確認した。9月7日には2ヶ所でそれぞれ2羽ずつ目視確認した。11月3日には生息を確認できなかった。2003年には5月18日の調査では確認できなかったが、6月1日に十方山林道の下山橋付近で2羽を確認した。6月8日に下山橋付近で標識調査により雌雄各1羽を捕獲した。雌には抱卵班が確認された。また、この周辺では3個体のさえずりを確認した。8月15日に下山橋から西へ約200mの地点でつがいと巣立ち雛を確認した。10月4日に下山橋付近で大きな群れが見られ、標識調査で49羽を捕獲し足環を装着した。この群れにはカスミ網にかからなかった個体もふくまれているので、少なくとも50羽以上の群れであった。この群れはミズキ *Cornus controversa* の果実を採食していた。10月19日に下山橋付近で標識調査を行い21羽を捕獲した。うち、6羽は10月4日に標識した個体であり、15羽は未標識個体であった。11月8日に下山橋付近で標識調査を行い4羽の未標識個体を捕獲し、標識した。

11月16日および11月22日の調査では生息を確認できなかった。



- ソウシチョウの確認地点
- 1 廿日市市十方山林道
- 2 廿日市市十方山
- 3 山県郡戸河内町恐羅漢山
- 4 山県郡芸北町臥竜山
- 5 廿日市市立岩ダム湖畔



1:200,000



国土地理院発行の20万分の1地勢図（広島）をもとに作製

図1 調査地の概要

甘日市市十方山山頂の生息地では、2003年11月1日に北側斜面の標高約1,300mの地点でさえずりを確認した。

甘日市市立岩ダムの生息地では、2003年11月24日に立岩ダムの西側湖岸の標高約520mの地点で10羽前後の群れを確認した。11月29日に同一地点で標識調査で9羽を捕獲し、標識した。12月7日に同一地点で3羽を再捕獲した。

山県郡戸河内町恐羅漢山の生息地では、2003年8月3日に北側斜面の標高約1,100mと約1,200mの2地点でそれぞれさえずりを確認した。10月5日に北側斜面の標高約1,100mの地点でさえずりを確認し、標高約975mの地点で10羽前後の群れを確認した。

山県郡芸北町臥竜山の生息地では、2003年8月15日に北側斜面の標高約1,100mの地点で3羽を標識調査で捕獲した。

2. 生息地の環境

甘日市市十方山林道の生息地は標高約880mの地点(図1の1)で、高木層としてミズナラ *Quercus mongolica*、サワグルミ *Pterocarya rhoifolia* などが見られ、亜高木層としてチドリノキ *Acer carpiniifolium*、アサガラ *Pterostyrax corymbosa* などが見られ、低木層としてイブキザサ *Sasa tsuboiana* が繁茂している溪畔林である(図版1-A・B)。

甘日市市十方山山頂の生息地は、北側斜面の標高約1,300mの地点(図1の2)で、高木層としてブナ *Fagus crenata* が見られ、低木層としてサワフタギ *Symplocos chinensis* が見られ、イブキザサが繁茂している(図版2-A・B)。

甘日市市立岩ダムの生息地は、立岩ダムの西側湖畔の標高約520mの地点で、高木層としてコナラ *Quercus serrata* やスギ *Cryptomeria japonica* などが見られ、低木層ではヤダケ *Pseudosasa japonica* が繁茂している。

山県郡戸河内町恐羅漢山の生息地は、北側斜面の標高約1,100mと1,200mの地点(図1の3)である。高木層としてブナやトチノキ *Aesculus turbinata* などが見られ、低木層ではサワフタギ *Symplocos chinensis* が見られ、イブキザサが繁茂している(図版2-C・D)。

山県郡芸北町臥竜山の生息地は、北側斜面の標高約1,100mの地点(図1の4)で、高木・亜高木層ではブナやトチノキなどが見られ、低木層ではクロモジ *Lindera umbellata* やオオカメノキ *Viburnum furcatum* などが見られ、草本層ではオクノカンスゲ *Carex foliosissima* やコバノフユイチゴ *Rubus pectinellus* などが見られる(図版3-A・B)。

考 察

九州におけるソウシチヨウの生息環境は、スズタケ *Sasamorpha borealis* の繁茂する標高1,000m以上の落葉広葉樹林である(日本生態学会 2002)。また、茨城県筑波山の生息環境も林床にスズタケが密生する落葉広葉樹林である(東條・中村 1999)。スズタケは広島県内では、ソウシチヨウがみられる標高の高い中国山地脊梁部には分布しない(竹田 1995)。十方山林道、十方山山頂、恐羅漢山の生息地はいずれも林床にイブキザサが繁茂する落葉広葉樹林であり、標高は880mから1,300mであった。また、十方山林道から東へ約2.5km離れた内黒峠でも2003年9月に確認され

ているが(吉見良一氏 私信), ここも林床にイブキザサが繁茂する落葉広葉樹林である。臥竜山の生息地の林床はクロモジやオオカメノキがみられ, ササ類は生育していない。臥竜山では標識調査で確認されただけで, その後の確認がされていないので, 移動途中の個体と考えられる。ただし, 臥竜山の南側斜面にはチマキザサ *Sasa palmata* が繁茂しており, ここで繁殖している可能性がある。

繁殖については巣立ち雛を十方林道で確認しただけで, 巣はまだ確認されていない。繁殖期にはつがいになわばりをかまえて分散しており, 今のところ密度が低いので巣の発見が難しかった。生息確認も繁殖期は分散しているうえ, 姿もあまり見せないのが難しいが, さえずりを手がかりに生息を確認することができる。

10月初旬ころからは数羽から50羽以上の群れをつくり, にぎやかにさえずりながら行動するので, 生息を確認するにはこの時期が適している。ソウシチョウはアオハダ *Ilex macropoda*, ミズキ, オオカメノキ *Viburnum furcatum* などの果実を食べることが報告されている(東條・中村 1999)。十方林道の生息地は落葉広葉樹からなる溪畔林が発達しており, ミズキ, ツルウメモドキ *Celastrus orbiculatus*, アオハダなどの果実をつける樹種が多く, 餌資源も豊富である。10月初旬からミズキの多い場所に執着し, 約1ヶ月にわたって果実を採食している群れを確認することができた。しかし, 11月中旬になるとソウシチョウの生息が確認できなくなった。

一方, 11月24日に廿日市市立岩ダム湖畔で10羽の群れを確認したことから, 11月下旬になると標高の低い温暖な地域に移動することが考えられた。

西中国山地とならんでブナ林が発達している備北山地でのソウシチョウの生息は吾妻山で確認されている。吾妻山をはじめとして, 比婆山, 大万木山, 猫山などの備北山地にはイブキザサが分布しており(竹田 1995), 今後これらの地域でソウシチョウが確認される可能性がある。

九州の森林においては下層部利用種が少なく, ソウシチョウと競合する有力種がないことがソウシチョウの定着増加をもたらしたと考えられている(江口・増田 1994)。西中国山地においても, 森林の下層部利用種はウゲイスくらいなので, 今後も広範に定着増加する可能性があり, 引き続き観察してゆく必要がある。

謝 辞

本調査を行うにあたり, ササ類の同定をしていただいた毘沙門台小学校の斉藤隆登氏, 調査等にご協力いただいた修道学園の寺山美穂子氏, 広島県衛生研究所の島津幸枝氏, 広島フィールドミュージアムの木村幸子氏, 木村路子氏の方々にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。また, ソウシチョウに関する情報を快く提供していただいた, 日本野鳥の会の山本 裕氏, 吉見良一氏, 酒井洋子氏, 広島クマタカ研究会の飯田知彦博士にお礼申し上げます。

摘 要

- 1 2002年8月に廿日市市十方山林道において, ソウシチョウの生息を西中国山地で初めて確認した。

- 2 2003年に西中国山地の廿日市市十方山山頂, 廿日市市立岩ダム湖畔, 山県郡戸河内町恐羅漢山, 山県郡芸北町臥竜山でソウシチョウの生息を確認した.
- 3 2003年に廿日市市十方山林道および廿日市市立岩ダム湖畔において79羽のソウシチョウを捕獲して, 標識用足輪を装着した.
- 4 西中国山地におけるソウシチョウの生息環境は, 標高約900m以上の林床にイブキザサが繁茂する落葉広葉樹林が主である.

参 考 文 献

- Amano, H.E. and Eguchi, K. 2002 Nest-site selection of the Red-billed Leiothrix and Japanese Bush Warbler in Japan Ornithological Science 1 : 101-110
- 江口和洋・天野一葉 1999 移入鳥類の帰化 日本鳥学会誌 47 : 97-114
- 江口和洋・増田智久 1994 九州におけるソウシチョウ *Leiothrix lutea* の生息環境 日本鳥学会誌 43 : 91-100
- 日本生態学会 編 2002 外来種ハンドブック 390pp 地人書館 東京
- 竹田孝雄 1995 広島県ササ類植物誌 230pp シンセイアート出版部 広島
- 東條一史 1996 日本における帰化鳥類の現状と問題点 関西自然保護機構会報 18 : 107-114
- 東條一史・中村秀哉 1999 ソウシチョウ *Leiothrix lutea* の糞中に見いだされた植物の種子 日本鳥学会誌 47 : 115-117
- 山岸 哲・樋口広芳 共編 2002 これからの鳥類学 506pp 裳華房 東京
- 吉野智生・川上和人・佐々木 均・宮本健司・浅川満彦 2003 日本における外来鳥類ガビチョウ *Garrulax canorus* 及びソウシチョウ *Leiothrix lutea* (スズメ目:チメドリ科) の寄生虫学的調査 日本鳥学会誌 52 : 39-42

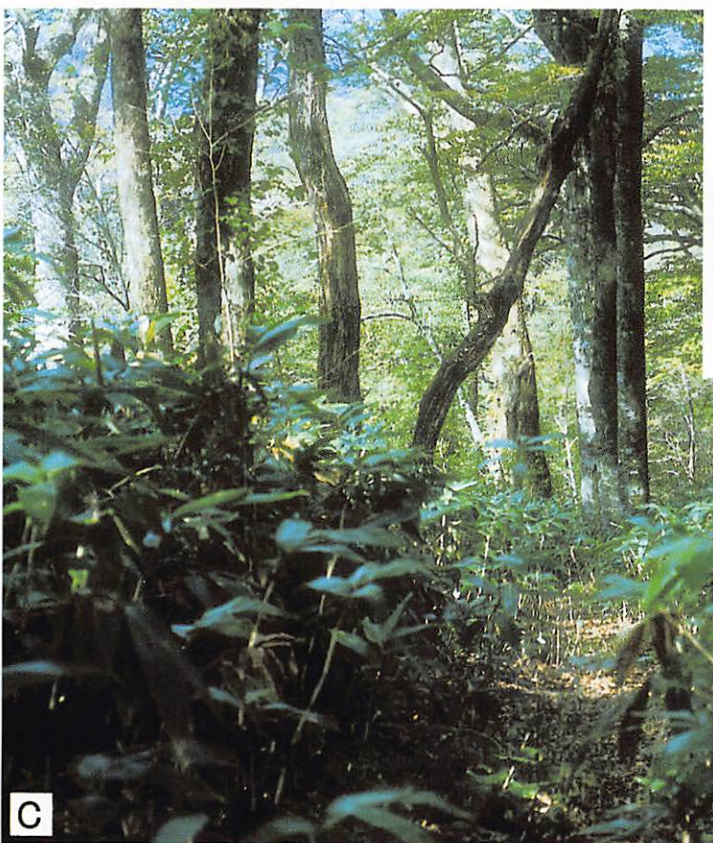
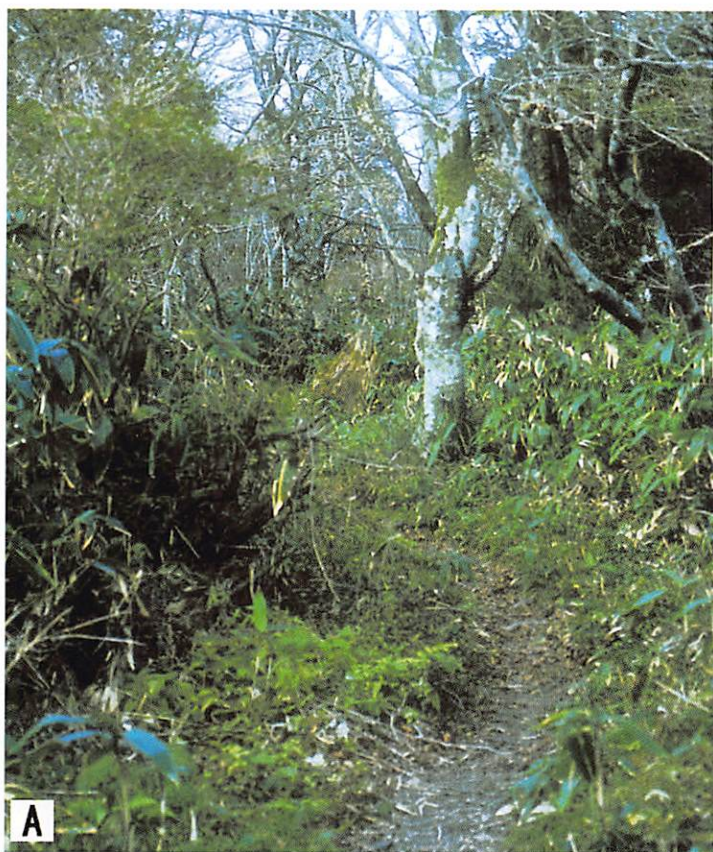
2003年12月22日受付; 2004年2月24日受理

図 版 1

A : 生息環境の林床部	廿日市市十方山林道	2003年6月
B : 生息環境	廿日市市十方山林道	2003年6月
C : ソウシチョウ (雄)	廿日市市十方山林道	2003年6月8日
D : ソウシチョウ (雄-左・雌-右)	廿日市市十方山林道	2003年6月8日



A：生息環境の林床部	廿日市市十方山山頂	2003年11月 1 日
B：生息環境	廿日市市十方山山頂	2003年11月 1 日
C：生息環境の林床部	山県郡戸河内町恐羅漢山	2003年10月 5 日
D：生息環境	山県郡戸河内町恐羅漢山	2003年10月 5 日



生息環境の林床部

山県郡芸北町臥竜山

2003年10月5日

生息環境

山県郡芸北町臥竜山

2003年10月5日

ソウシチョウ (頭胴部)

山県郡芸北町臥竜山

2003年8月15日

ソウシチョウ

山県郡芸北町臥竜山

2003年8月15日

